

第108回萩句会報告（順不同）

日時 2018年7月9日（月） 14時～17時

兼題「行水」

- 川井素山 ○夕風や網ぬふ漁夫の鼻眼鏡
行水や風を^{たの}待まず実の落つる
風鈴の風を呼んでる酒肆明かり
潮止り航跡しるき夏の空
- 保井寶正 ○枝豆や付度いらぬ塩加減
行水や赤子のもみじ朱に染むる
鮎鮓や京言葉添ふ帰国子女
梅雨^{ぼうだ}滂沱けぶりてみへぬスカイツリ
- 佐久間喬 ○木漏れ日に預ける心ハンモック
炎天や喪服の歩み小さけり
坊主頭ビニールたらいの行水
愚痴聞きて物言う仲の生ビール
- 丸山酔宵子 ○黒潮に乗った鯉は塩で喰ふ
梅雨明けや新たな出会ひ胸騒ぐ
風に揺れ夕陽に浮かぶ月見草
行水の音を遮るや猫の声
- 菊地崇之 ○雨期^{すぎ}急過ぬ街に見掛ぬ散水車
風情何無打ち水せずに道を塗る
行水は亀の子束子玉の肌
^{すず}漫ろくや黒装束洗い髪
- 吉田啓悟 ○ひとすじの光さし込む風炉手前
沖荒れて^{はまなす}玫瑰花を待たせおり
年老いて気楽な仲間暑気払
行水や叱られし日のなつかしく

- 青木英林 ○夕風や浜に鷗の微動だに
月涼し殺生石に読経僧
行水や火照り飛ばせる毛穴まで
夾竹桃殺意を秘めし人もをり
- 山本草風 ○行水や白き背中に星点る
近づけば旧知ありけり夏帽子
六月や雨の匂ひの風重し
夕暮れに風呂やにぎわふ街薄暑
- 佐伯兵庫 ○行水の形で流す狭ひ庭
香味野菜ワインにキッスパリー祭
待ち合せ言い訳詰まり振る扇子
耳元に鳥の声する昼寝かな
- 佐久間たか子 ○日の盛りむなしく響く信号音
白南風やジャズの余韻にステップ踏む
大花火空のキャンバス縦横に
行水のあかね雲映えしぶき玉
- 渡辺鯨波 ○行水の子にほんのりと手術痕
行水や軍艦浮かべ波立てる
熱帯夜三語で終わる日記かな
猫パンチ切れ味鈍い半夏生
- 澁谷瑠璃 ○走馬灯何回転の命かな
てんしうお
天使魚 ここに天国ないと知る
みずあそび
水遊 回帰本能刺激する
繋ぎし手離さず越へよ夏の果
- 原 晶如 ○持ち帰る四万六千日の夕日
夏のれん分ける人なし京の午後
サーフィンの大波今日も夜っぴとい
行水や尻尾とおぼし蒙古斑
- 後藤克彦 ○トタン屋根雨打つ音や半夏生
梅雨晴間ゴルフ一途の人ばかり
紫陽花の水色映える雨上がり
行水の子燥ぎ疲れ舟を漕ぐ

永井正孝 ○シャワー浴び試合の流れ囁み締める
雑踏の日傘が描く江戸しぐさ
散水車濡らせし道に安らげり
行水の木版描く江戸の夏

青葉ひかる ○レマン湖とブドウ畑とレモン水
行水の順番待つ昼下がり
バルト海高度一万メートル夏の雲
聳え立つマッターホルン黄金の峰

次回「萩句会」

日時 2018年9月10日(月) 14時～17時
場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『秋の蚊』一句
当季雑詠 三句